

地域実験動物研究会の活動紹介

各地域の実験動物研究会の活動を順不同で紹介いたします。詳細な内容のお問い合わせは各研究会の事務局までお願い致します。

関西実験動物研究会

事務局：京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設内

TEL:075-753-4489, FAX:075-753-4409

E-mail:kansaijim@anim.med.kyoto-u.ac.jp

URL:<http://www.anim.med.kyoto-u.ac.jp>

◎第76回研究会(平成14年12月6日、京都市勤業館「みやこめっせ」)

会員の研究発表 17題

マウスモデルを用いた大腸癌の形成とその化学予防の研究 武藤 誠(京大・院・医・遺伝薬理学)

◎第77回研究会(平成15年3月7日、京大 会館)

西ナイルウイルスの最新情報

1. バイオエマージェンシーとしての米国のアルボウイルス感染症 高崎智彦(国立感染症研究所ウイルス第一部第2室)

2. 西ナイルウイルス感染に対する宿主側免疫防御機構の解明

真下知士(京大 院・医・動物実験施設)
(株) ジャパンファーム クラウン研究所
「クラウン系ミニブタの紹介」

◎第78回研究会(平成15年6月6日、大阪府立大学学術交流会館)

細菌感染症の病原因子と分子病態

1. 下痢原性大腸菌の病原性一遺伝子解析から見えてきたこと一 山崎伸二(大阪府立大院・農学生命科学研究科・獣医国際防疫学)

2. 細菌性病原因子と生体成分の相互作用一百日咳菌壊死毒の分子作用機構一 堀口安彦(大阪大学・微生物病研究所・細菌毒素学)

3. ポツリヌス菌毒素に関する最近の研究動向 小崎俊司(大阪府立大院・農学生命科学研究科・獣医国際防疫学)

清水実験材料株式会社「動物実験施設でのスーパー次亜水による殺菌・消臭」

◎第79回研究会(平成15年9月26日、奈良市 猿沢荘)

テーマ「腎疾患モデルと投与採血の指針」

1. 線維芽細胞を中心とした間質線維化の発症機構について 岩野正之(奈良県立医科大・第一内科学講座)

2. 純系高IgA血症マウス(HIGA)の開発と病態解析 武曾恵理((財田)附興風会医学研究所 北野病院)

3. 被験物質の投与と採血に関するガイドライン 中井伸子(日本新薬(株)・安全性研究部) 維持会員ニュース (株)精研「アニコン(一方向気流方式)空調システムの開発と今後の展望」

◎第80回研究会(20周年記念研究会)(平成15年12月5日、京都市勤業館みやこめっせ)

◎関西実験動物研究会会報 第23号 平成14年12月会報の目次

第71回研究会(平成13年9月28日)

テーマ:「マウス・ラットの行動解析と痴呆症の動物モデル」

1. 概日行動の分子生物学

海老原史樹文(名古屋大・院・生命農学研究科)

4. 老化促進モデルマウスの加齢依存性の行動変化とその特性 宮本政臣(武田薬品医薬研究本部・創薬第一研究所)

5. 作業記憶に対する炎症性サイトカイン及びアミロイド前駆体蛋白末端フラグメントの作用に関する行動薬理学的検討

山本経之、松本裕司、渡辺繁紀(九州大・院・薬学研究科)

第72回研究会(平成13年12月14日)

1. マウスの歴史と遺伝子の歴史

森脇和郎(理研バイオリソースセンター)

2. 実験用ラットの価値

芹川忠夫(京大・院・医・動物実験施設)
会員による研究発表(15題)

第73回研究会(平成14年3月8日)

テーマ:「動物を用いた発がん研究の最前線」

1. 実験動物を用いたヒト発ガン研究・遺伝子機能を共通言語として 牛島俊和(国立がんセンター発がん研究部)

2. 環境遺伝子の発がんリスク:環境発がん物質に閾値が存在するか 福島昭治、鵜淵英機、森村圭一郎、魏 民(大阪市大・院・医・都市環境病理)

第74回研究会(平成14年6月4日)

テーマ:「生殖・発生研究の最前線」

1. 卵胞選択の制御機構:顆粒層細胞に特異的な新規細胞死受容体について

眞鍋 昇(京大・院・農・生体機構学)

2. 核の初期化機構とクローン技術の応用

若山照彦(理化研・発生・再生科学総合研)

東海実験動物研究会

事務局:〒466-8550 名古屋市昭和区舞鶴町 65

名古屋大学大学院医学系研究科

附属動物実験施設

TEL:052-744-2466(西村・八木)

FAX:052-744-2482

E-mail:nishi@med.nagoya-u.ac.jp or
syagi@med.nagoya-u.ac.jp

◎第 61 回研究会例会 (平成 15 年 3 月 15 日、三重大学医学部)

1. 戸田雅昭 (三重大学医学部)
紫外線照射による抗原特異的抑制性 T 細胞の誘導と抗腫瘍免疫の低下
2. 富田昌弘 (三重大学工学部)
新世代モノクローナル抗体作製技術の開発とその応用
3. 伊藤 均 (菌類研究所)
キノコ類の薬理活性、特に[学名]Agaricus blazei Murrill
4. 鈴木登志郎 (日本エスエルシー)
日本エスエルシーにおける Tg マウス作出実績ならびに Tg マウス凍結精子からの蘇生仔作出における透明体開口術 (PZD) および卵実質内精子注入法の有用性
5. 佐々木勉 (㈱共生 カルモア事業部)
動物実験施設における臭気対策:酸素クラスター脱臭装置での事例

◎平成 15 年度研究会総会&研究発表会 (平成 15 年 7 月 12 日、名古屋大学農学部)

一般講演 (9 題、演題名のみ)

1. 新たな糖尿病シンクス系統 (SDN-Suncus) のライン育成
3. 早成性 歯トゲマウス (Acomys cahirin) の成長と小脳の発達
4. F344/N ラットの生殖周期と卵巣の加齢変化
5. 移動性ストライプを持つ新規突然変異マウスについて
6. 突然変異遺伝子の新しい探索システムの開発—クローズドコロニー ICR マウスに内在する突然変異遺伝子について—
7. エンドトキシンによる肝薬物代謝酵素活性の低下に及ぼすインスリン抵抗性改善薬ピオグリタゾンの影響
8. 麻酔が小動物の心血管動態に及ぼす影響
9. マウス小型精巣突然変異に関する生殖・遺伝学的研究

特別講演

突然変異の探求と追求

若杉 昇 (名大院・生命農学)

北陸実験動物研究会

事務局：〒920-8640 石川県金沢市宝町 13-1

金沢大学学際科学実験センター

遺伝子改変動物分野

TEL:076-265-2460 FAX:076-234-4240

E-mail:lara@med.kanazawa-u.ac.jp

URL:<http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med38/>

lara/index.html

◎第 7 回総会・第 20 回研究会 (金沢) (平成 15 年 8 月 9 日、金沢大学医学部)

1. 実験動物の知的財産権について
佐藤不二男((社)発明協会 特許流通促進事業センター 特許流通アドバイザーグループ 参事)
2. 金沢大学の知的財産の技術移転
平野武嗣 (金沢大学ティ・エル・オー 監査役, 金沢大学共同利用研究センター産学連携コーディネーター)
3. 大学発の発明をもとに商品化された HVJ エンベロープベクター
宮田敬三 (石原産業中央研究所 研究主管)

◎ニュースレター (ほくりく実験動物)

No. 20, 2003. 8. 4 発行

幹事会記録

お知らせ

第 7 回総会・第 20 回研究会案内

講演要旨 1, 2, 3

連載 発生工学の現在

九州実験動物研究会

事務局：〒852-8523 長崎市坂本-12-4

長崎大学先導生命科学研究支援センター

比較動物医学分野 (動物実験施設)

TEL:095-849-7135, FAX:095-849-7148

E-mail:y-abe@net2.nagasaki-u.ac.jp

URL:[http://www.miyazaki-med.ac.jp/](http://www.miyazaki-med.ac.jp/animalcenter/11.html)

[animalcenter/11.html](http://www.miyazaki-med.ac.jp/animalcenter/11.html)

◎第 21 回九州実験動物研究会総会, 第 23 回日本実験動物技術者協会九州支部研究発表会合同開催 世話人 万年和明 (大分医科大学総合科学研究支援センター生命科学分野動物実験部門) (平成 15 年 11 月 8 日、9 日、大分医科大学看護学科講義棟、または株式会社アステム会議室、場所の最終決定は 9 月上旬の予定)

11 月 8 日: 第 23 回日本実験動物技術者協会九州支部研究発表会

11 月 9 日: 第 21 回九州実験動物研究会総会

一般演題 (1)

賛助会員によるプレゼンテーション

特別講演:「ウエストナイルウイルスとその媒介蚊」

大分医科大学医学部感染分子病態制御学講座

江下優樹先生

一般演題 (2)

◎九州実験動物雑誌第 18 号 (平成 14 年 11 月発行)

九州実験動物研究会発足 20 周年に寄せて

佐藤 浩

九州実験動物研究会の20周年を祝して

山内忠平

九州実験動物研究会の20年を振り返って

半田純雄

中国・広東省実験動物学会と九州実験動物研究会との学術交流がいよいよスタート 浦野 徹
特別寄稿

マウス腎臓の組織構造の特性 -系統性および雌雄差- 矢吹 映

資料

蒸気滅菌について 堀川雅英

原著(題名のみ)

1. モルモットの居住歴の違いにおける床敷材選択行動の比較
2. 体外受精に用いる雌マウスの週齢に関する研究
3. 凍結マウス胚における再凍結・融解の影響
4. マウス精巢上体尾部の低温保存および輸送に関する研究
5. 5年間凍結保存したマウス精子による産子の作出
6. 生殖工学技術習得における個人差について
7. 輸送したラット凍結精子を用いた人工授精成績について
8. 湿式サイクロン脱臭方式の空調システムにおける脱臭および除菌効果について
9. 胚凍結操作が遺伝子導入マウス出現率に及ぼす影響について
10. 各種マウス系統における体外受精・胚の培養および移植成績の検討
11. 活動性ストレスによる「過労死」モデル動物の循環動態

第19回九州実験動物研究会総会記録

特別講演

ゲノム時代に、なぜ「遺体」なのか? 遠藤秀紀

第20回(平成14年11月2・3日)九州実験動物研究会総会プログラム

第19回九州実験動物研究会総会記録

研究会だより他

東北実験動物研究会

事務局:〒980-0000 仙台市青葉区星稜町2-1

東北大学大学院医学研究科附属動物実験施設

TEL:022-33-717-8175, FAX:022-717-8180

URL:[http://www.med.akiita-u.ac.jp/~](http://www.med.akiita-u.ac.jp/~Doubutu/tohoku/tohoku14/inv.html)

[Doubutu/tohoku/tohoku14/inv.html](http://www.med.akiita-u.ac.jp/~Doubutu/tohoku/tohoku14/inv.html)

◎第13回研究会(平成14年10月25日、岩手医大循環器センター(60周年記念館))日本実験動物技術者協会・奥羽支部・東北支部共催講演会

1. サルのBウイルス感染症 本藤 良(日本獣

医畜産大)

2. 神経組織の再生—グリア細胞の役割 遠藤稿二郎(岩手医大)
3. マウス核移植クローン技術の開発とその利用 小倉淳郎(理化学研究所バイオリソースセンター)

筑波実験動物研究会

事務局:〒305-8575 つくば市天王台1-1-1

筑波大学生命科学動物資源センター

連絡先:オリエンタルバイオサービス関東

(江川寅彦氏)

TEL:029-858-0115, FAX:029-858-2931

E-mail:egawa@oyc.co.jp

第23回講演会(平成14年6月5日)

1. 「理研バイオリソースセンターの展望と施設の紹介」理化学研究所 バイオリソースセンター 部長 小幡裕一先生
2. 「CARD(動物資源開発センター)と大学発ベンチャー「ユージーン」」熊本大学発生医学研究センター センター長 山村研一先生
3. 「筑波大学・生命科学動物資源センター—遺伝子改変マウスの受託作製について」筑波大学生命科学動物資源センター・資源開発分野教授 高橋 智先生
4. 「バイオ・リサーチソースとしての実験用霊長類—遺伝子保存とモデル開発—」国立感染研筑波医学実験用霊長類センター センター長 寺尾恵治先生

第24回講演会(平成14年12月6日)

1. 「動物愛護管理法の見直し作業の経過と予測」—家庭動物基準と実験動物基準— 慶応大学医学部 動物実験センター長 教授 前島一淑先生
2. 「動物福祉に関する国際的背景」—われわれは動物実験を自主管理できているだろうか— グラクソ・スミスクライン株式会社 研究本部 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター 変異マウス開発チーム 実験動物アドバイザー 鍵山直子先生

第25回講演会(平成15年6月18日)

1. 「諸外国における3Rに基づいた動物実験の推進」秋田大学医学部附属動物実験施設 助教授 松田幸久先生
 2. 「ICHの歴史的背景と今後の展望および動物愛護について」株式会社新日本科学 副社長 宮脇宏彰先生
- *ICH(International Conference Harmonization):医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション